

## [CASE 03]

## 帰るのが楽しみになる家

〈家族構成〉夫28歳、妻29歳、長男1歳6か月 〈入居年月〉2020年6月

1週間前に新居にご入居したばかりのN.N様ご家族。「まだこの家で生活らしいことはしていないので、住み心地の実感はないんです。でも毎日、家に帰るのがすごく楽しみです」とご主人。広々としたオープンキッチン、ドアノブや階段の手すり、照明器具などに取り入れたアイアンなどハイセンスな内装が印象的です。「我が家の内装は妻の憧れの結晶ですね。僕は妻を信じて、全部任せちゃいました」家を買おうと決めてから、ご入居までに費やした時間は約1年だったそうです。



### 「家を買おう」と決めてすぐに 購入可能な予算をリサーチ

お子様が生まれてしばらくしたころ、ご主人の会社からの家賃補助が終了することに。「家を買うことを考え始めましたが、僕たち夫婦がどのくらいの価格の物件を買うことができるのか、まったく想像ができなくて。まずは、夫婦でファイナンシャルプランナーの方に相談に行くところから始めました」

だいたいの予算感をつかんだところで「今度はマンションか建売か、注文住宅かという選択に迷いました。僕たちの予算でどんな物件を買うことができるのか？を知るためにけっこうモデルルームに足を運びましたね」

この頃からすでに、奥様の心の中には「注文住宅で理想の我が家を建てたい」という思いが芽生えていたのだそう。「でも、東京で注文住宅の家を建てるのは、予算的に難しいんじゃないか、とっていて。夫はマンションに気持ちが傾いているようでしたが、私は地方育ちということもあって、一軒家を建てることに憧れていたんですね。家を買って一生に一度のことですし、妥協はしたくなかったです」

### 注文住宅に手が届く！と知りハウスメーカー選びがスタート

リサーチを始めるとN様ご夫妻の予算での注文住宅の購入が可能であることが判明。「注文住宅でいこう、と決めてからハウスメーカー選びと土地を探すことがはじまりました。僕の唯一の条件が『最寄り駅から徒歩10分圏内』だったので、その条件に合う土地を探しながら並行してハウスメーカーさんを探しました」

奥様は「憧れの実現を前にして夢がどんどん膨らみ始めました」と振り返ります。「注文住宅、と決めたときからどんどん夢が膨らんでいって。SNSで素敵な暮らしをしている方の投稿を見たり、お宅が紹介されている記事をチェックして。自分の理想のイメージを固めていきました。現実的には予算との兼ね合いで、できることとできないことがある、というのは理解していたのですが、夢がどんどん膨らんでいって。本当に楽しかったです」

この時点で「家を買おう」と決めてから半年ほどが経過。そんなとき、土地の仲介業者さんから三絆地所を紹介されたのだそう。

「誰もが社名を知っているような有名なハウスメーカーさんも併せて検討していたのですが、三絆地所さんという社名はそのとき初めて知りました。『いいハウスメーカーさんなので、話を聞くだけでも』と仲介業者さんに勧められて『話を聞いただけなら』という軽い気持ちでお会いしたんです」とご主人。

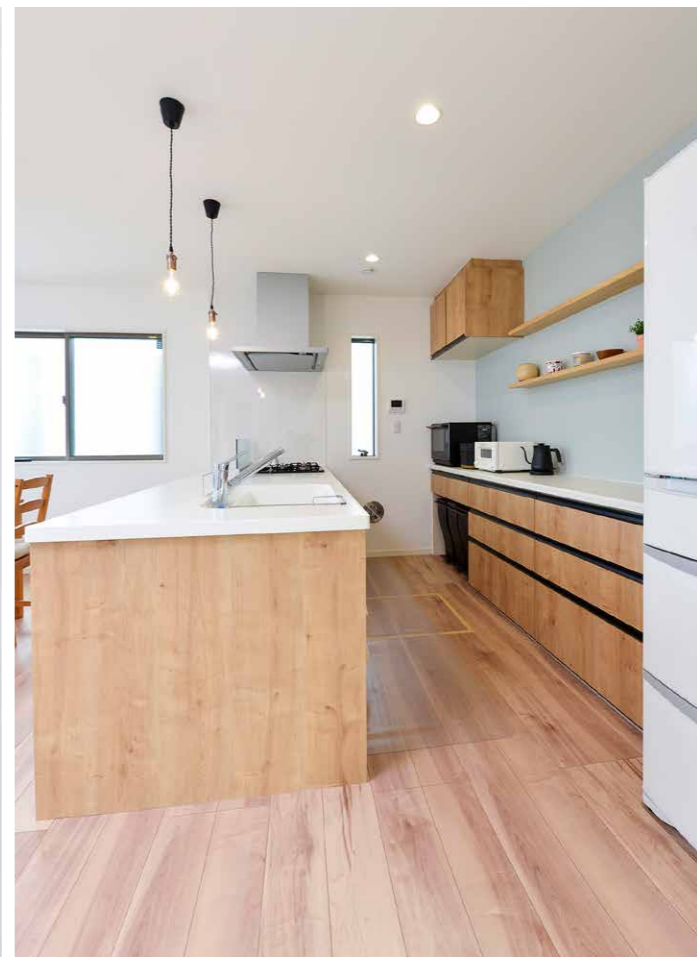
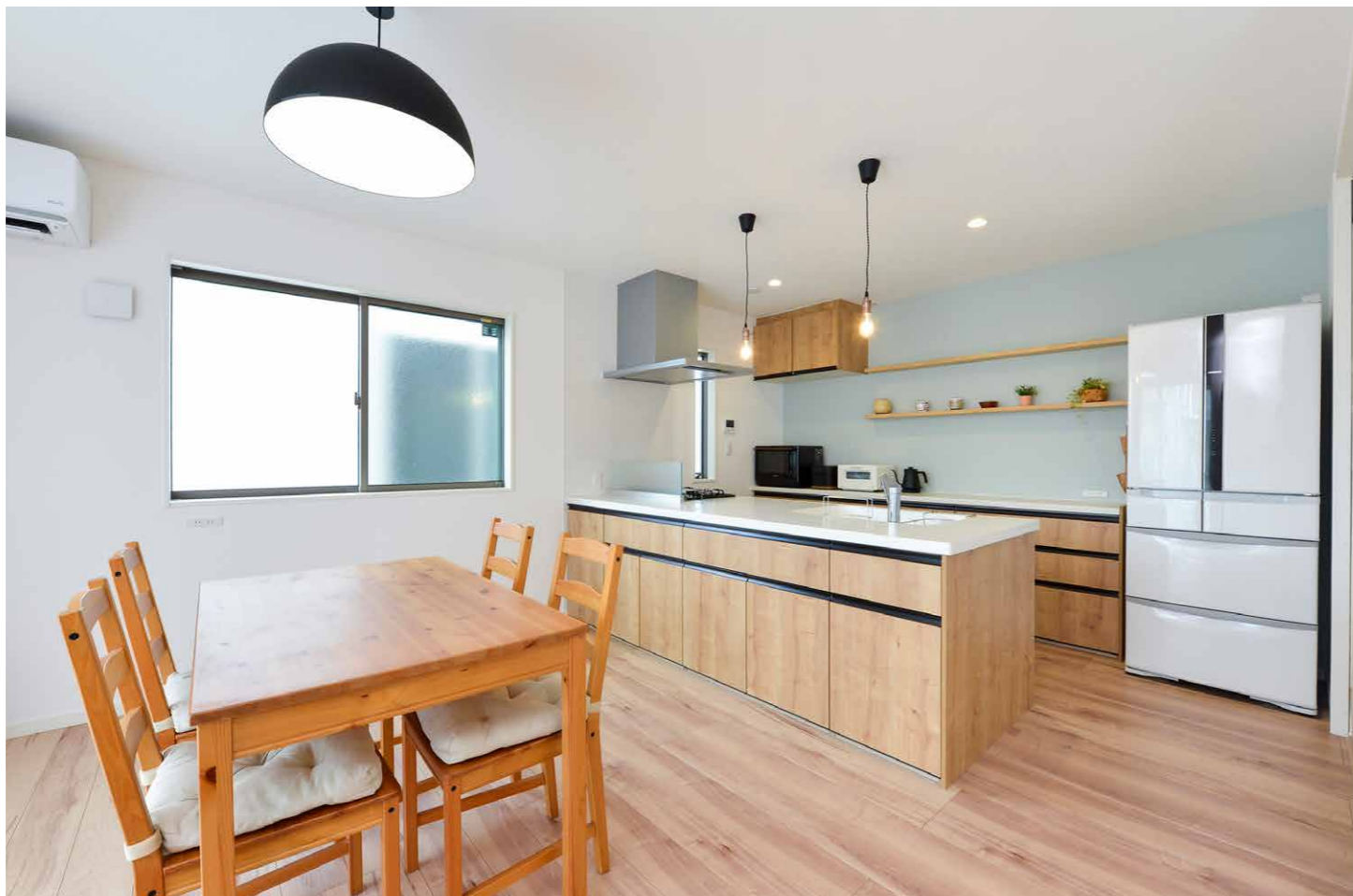
この出会いがN様ご夫妻の夢の実現のお手伝いへとつながったのです。

### 「この人にお任せしたい！」という直感で決めました

半年ほど住宅の購入に向けてのリサーチを続けてきたN様ご夫妻。その経験から「担当者の方との相性を重視したい」という気持ちが強くなってきていました。「私たち夫婦にとって人生でもっとも高額な買い物であり、恐らく、一生で一度のこと。そう考えると、ハウスメーカーの担当者さんとの相性がものすごく大切だな、と考えるようになっていったんです。とくに、私は自分が理想の家へのこだわりが強いことを自覚していましたので、なんでも相談できる方がいいなあとあって」

「家づくりの理想と現実で折り合いをつけなくてはいけないところって、費用面だと思うのですね。予算が天井知らずであれば何でもできる。でも、そうではないから難しい。住宅のプロとしてその思いを汲んでいただける予感を、三絆地所さんにご相談したときに感じたんです。帰宅して妻と話したときに、彼女も『私もそう感じた！』と言っていて。じゃあ、三絆さんをお願いしよう、と決めました」





収納力と機能性を兼ね備えたこだわりのキッチン



夫婦で一緒に料理を楽しめるゆったりとしたキッチンスペース

### 1階にこだわりを凝縮して憧れのキッチンとリビングを実現

両方向に収納のある大きなキッチンスペース。一角だけ色の違う壁紙と飾り棚をしつらえ、料理をしながらリビング全体を見渡せる間取りは「三絆さんのおかげで実現できた、私のこだわりの集大成ですね。リビングで遊んでいる子供の様子を見ながら、夫と同時にキッチンに立てるようにしたかったんです」と奥様。

「夫婦が家に揃っているときに、子供を見ながら一緒に料理ができれば効率もいいですね。僕は一人暮らしをしていたので家事の大変さは良くわかっているので、そこに子育てが加わると色々大変ですから。家事を夫婦で同時にこなせばその分、家族でくつろぐ時間が増えますし」

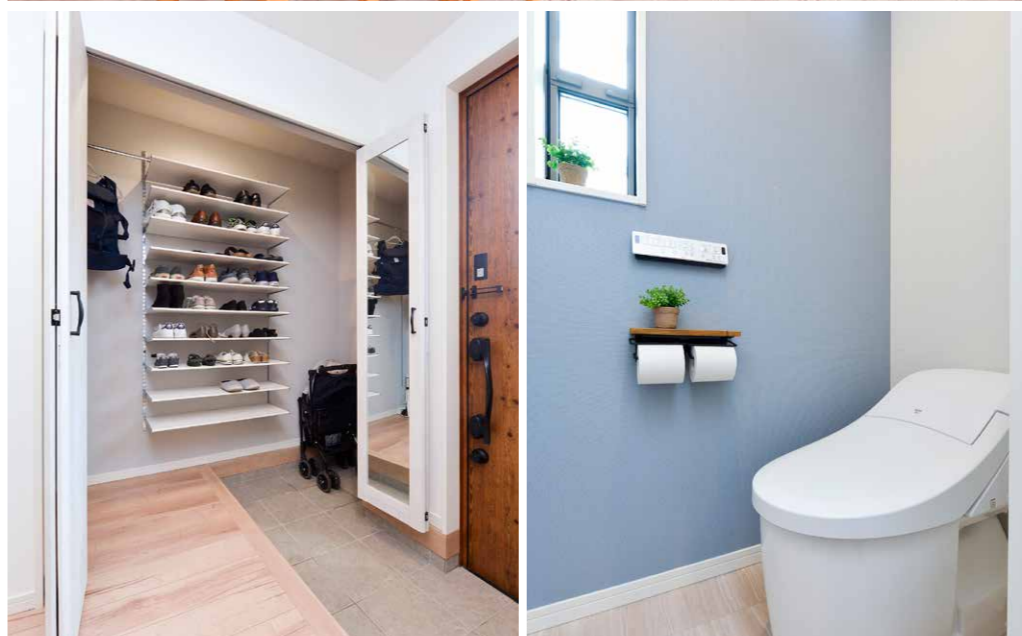
リビングにしつらえた畳スペースは息子さんの遊び場兼お昼寝スペースに。可動式の扉もあるので、来客用の寝室としても使えます。

「収納まわりは三絆さんから、家事動線を考えたご提案をいただきました。例えば、シューズクロックの中も玄関のたたき部分と室内部分をつくることで、ベビーカーや傘などの屋外で使うものと、室内で使う掃除用具入れも兼ねているんですね。玄関が広々しているのでベビーカーを畳む、広げる動作もラクですね」

2階のバスルームと洗面所、ウォークインクローゼット、主寝室は隣り合わせの間取りで、それぞれから行き来が可能。「朝の着替えや洗面、洗濯した衣類の収納に必要なスペースがまとまっていて、とても使いやすいです」



お子様の遊び場やお昼寝はもちろん、客間としても使える畳スペース



生活動線を考え抜かれたシューズクロック

壁紙の色に変化をつけて、トイレスペースもお洒落に

### 予想外の在宅勤務にも適した間取り

N様邸の施工が始まったときには、予想もしていなかったコロナ禍によって、ご主人は新居の引き渡し前から在宅勤務に。

「息子に僕が家にいるのを見つっちゃうと、遊ぼうと誘われて仕事にならなくて。クローゼットの中で隠れて仕事をしていました。この家は1階にいる息子に僕の在宅を悟られることなく、2階で仕事ができる間取りなんです。在宅で仕事をするのはまったく想定していませんでしたが、在宅勤務にも適した家づくりができていたんだな、と気がきました」

玄関を入った後はドアノブなどに触れることなく、洗面台で手を洗える点も安心です。

「これから家で過ごす時間が増えると思うんですね。この家なら息子も広々と遊べますし、家事をしながら子供の様子も見えるので親としてもストレスがないですね」と奥様。

じつは、今まで使っていた家具はほとんど処分したのだそう。

「新しいソファは間もなく届きますが、それ以外の家具や雑貨はこれから、この家に似合うものをじっくり選びたいな、と思っています。この家での暮らしを楽しむためにやりたいことがたくさんあって、とってもワクワクしています」